

## 平成 28 年度研究報告書

### 研究テーマ

アレルギー疾患の発症に関係する因子の同定に関する研究

### 研究者氏名

木下芳一、石村典久、岡田真由美

### 研究概要

#### 目的

アレルギー疾患の内的因子を同定する

#### 方法

検診データを利用した観察研究

平成 28 年度は内的因子の中で重要な役割を有するヒスタミン、セロトニンの産生細胞である胃の ECL 細胞、腸管の EC 細胞の数とアレルギー発症との間と関係に注目した検討を行った。

検診を受診した自覚症状を有せず、また薬物の内服歴のない例に研究への協力を依頼し、検診で診断に用いた残血清を用いて特殊検査を行った。

特殊検査は消化管の EC 細胞や ECL 細胞などの内分泌細胞の数と相関すると考えられているクロモグラニン A とヘリコバクター・ピロリの感染診断を行った。

#### 結果

200 例以上の検診受験者の文書同意を得ることができ 残血清の収集が終了している。現在クロモグラニン A の測定とヘリコバクター・ピロリ IgG 抗体の測定を順次行っている。測定が完了すればクロモグラニン A の年齢別の健常者の血清正常値を設定することができると考えられる。今後は、この正常値をもとにアレルギー疾患患者のクロモグラニン A の測定を行ってアレルギー疾患への消化管内分泌細胞の関与の検討を進めている予定である。

#### 考察

本年度は健常者の血清を収集することに時間がかかったため、まだ十分な結果が得られるにいたっていないが、今後 測定が進むにつれて新しい成績があらわれるものと期待している。

#### 結語

アレルギー疾患に関与する内的因子を検討することを目的にヒスタミンなどの産生内  
分泌細胞のマーカーであるクロモグラニンAに着目して、正常値の設定を行っている。

文献

なし

図表

なし

学会、論文発表

なし